論点Ⅰ　関連資料

１　消防団員数の推移等

２　岩手県釜石市の取組（釜石市立釜石東中学校）

３　少年消防クラブの取組

４　高校生への拡大

５　大学生団員の増加への取組

６　女性消防団員増加への取組

７　消防団入団促進キャンペーン期間における広報展開

８　地域防災スクール、チャレンジ防災４８

平成 23 年 4 月 1 日現在の消防団員数について＜確定値＞

※岩手県、宮城県、福島県は平成 22 年 4 月 1 日現在

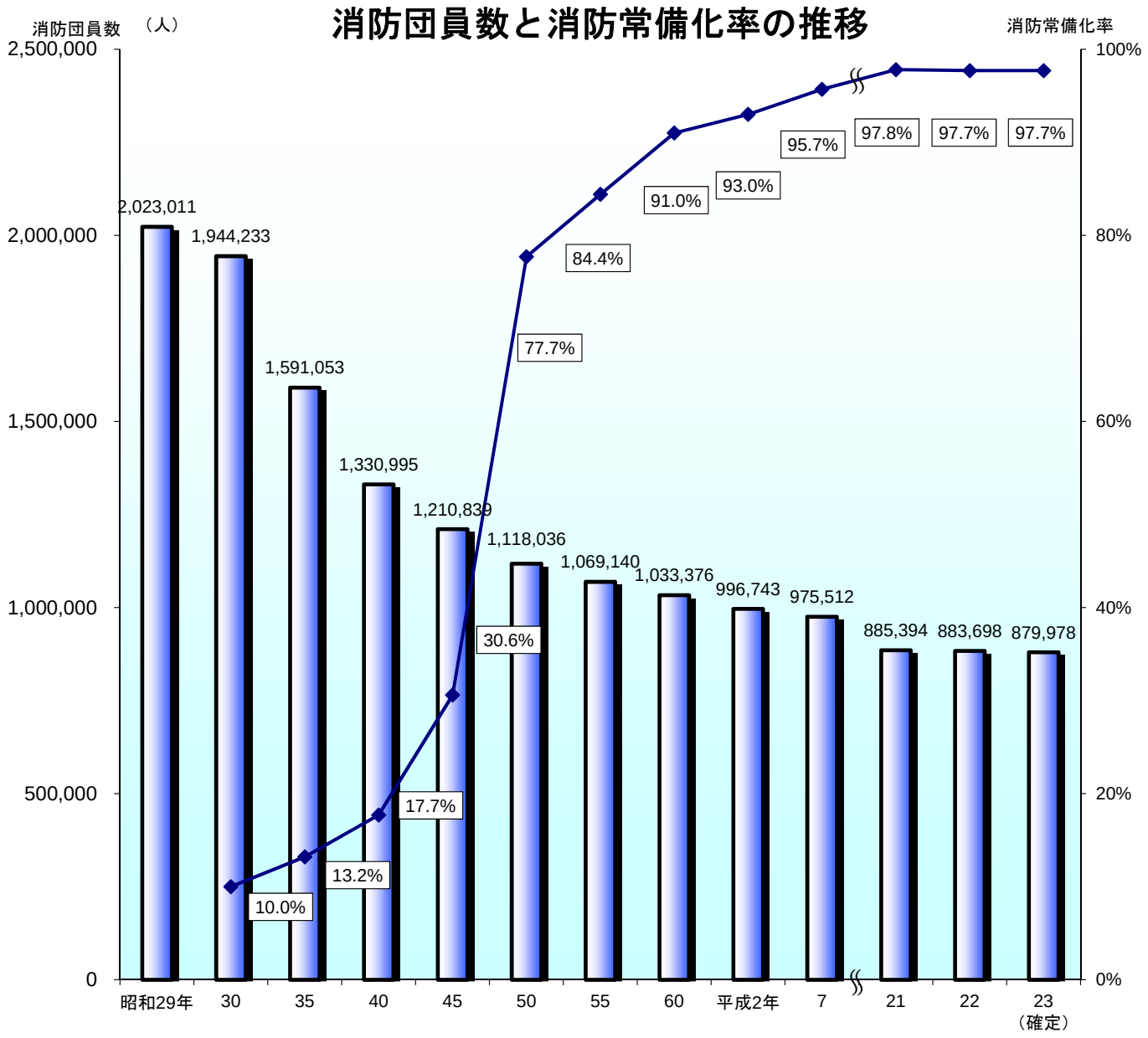
＜防災課消防団係＞

1　消防団・消防団員の現況

①　消　防　団　数：2,263 団（全国すべての市町村に設置）

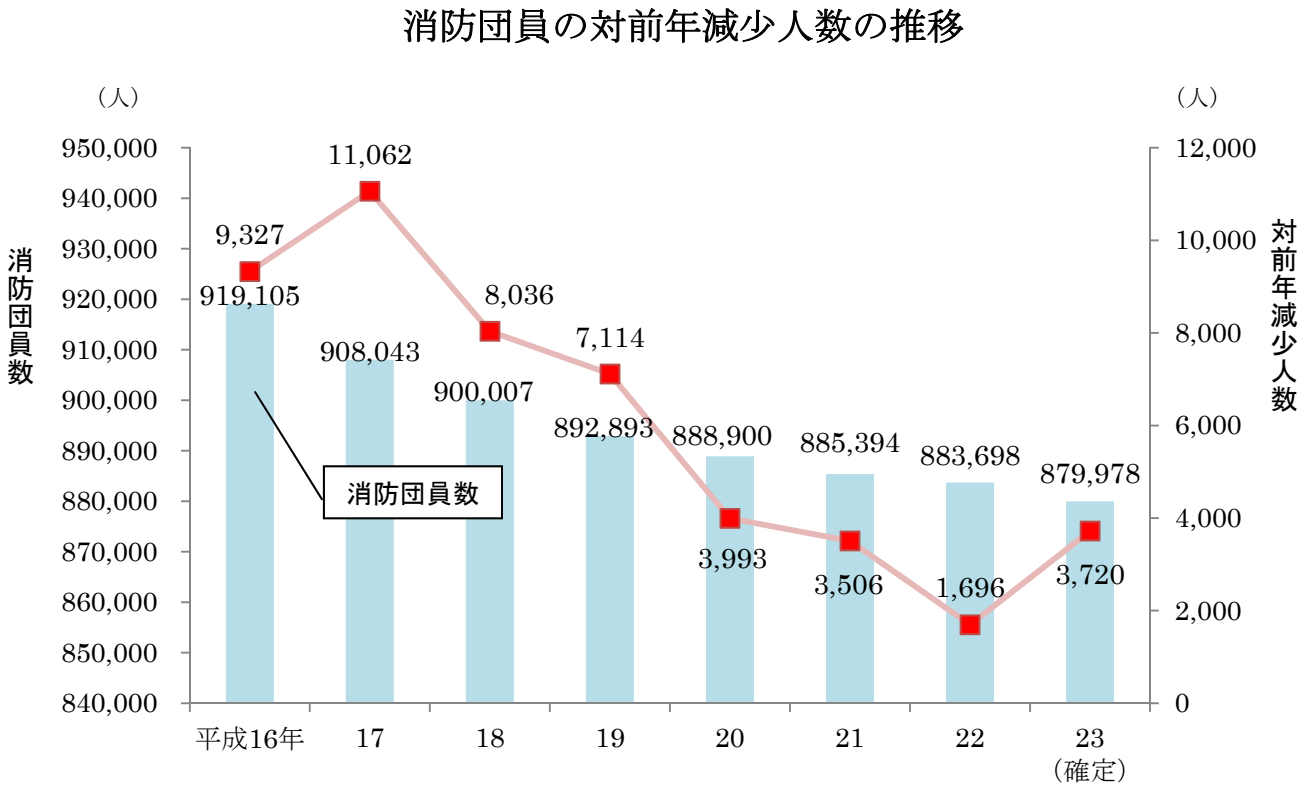
②　消　防　分　団　数：22,839 分団

③　消　防　団　員　数：879,978 人（前年度より 3,720 人減少）

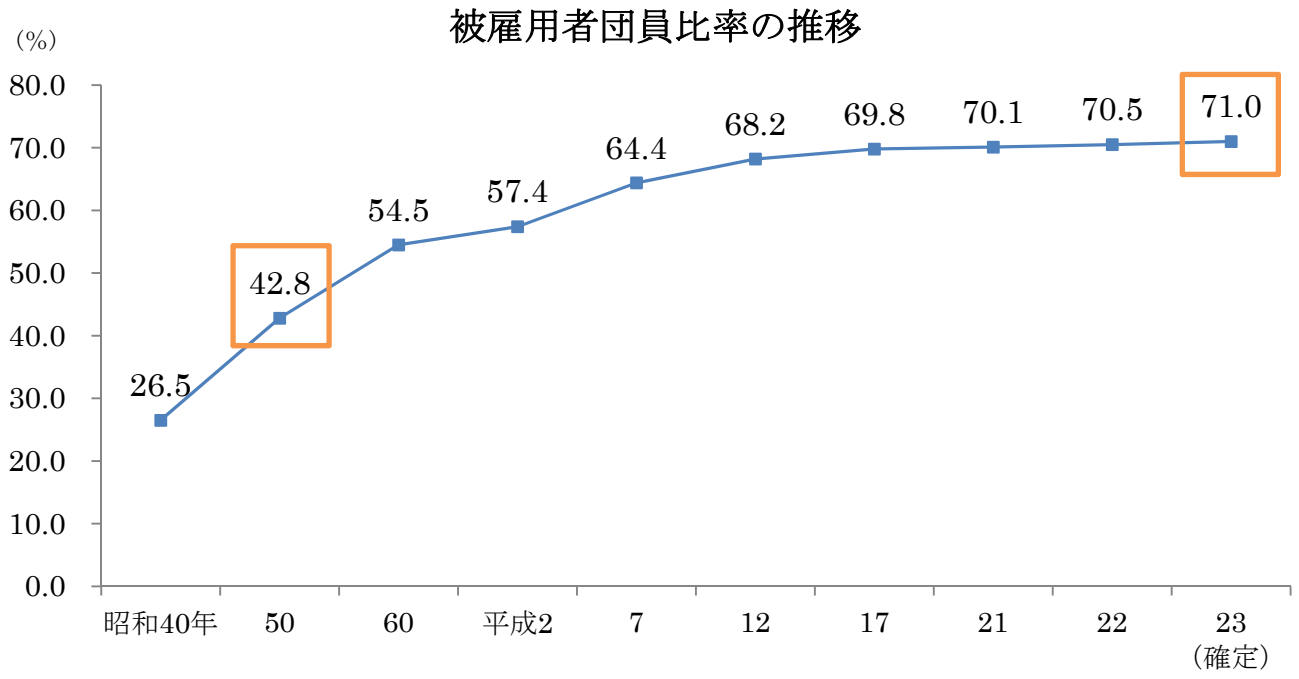


(常備化率は昭和31年の率)

2　対前年減少人数は、平成17年をピークに年々小さくなっていたが、平成23年は3,720人減少している。

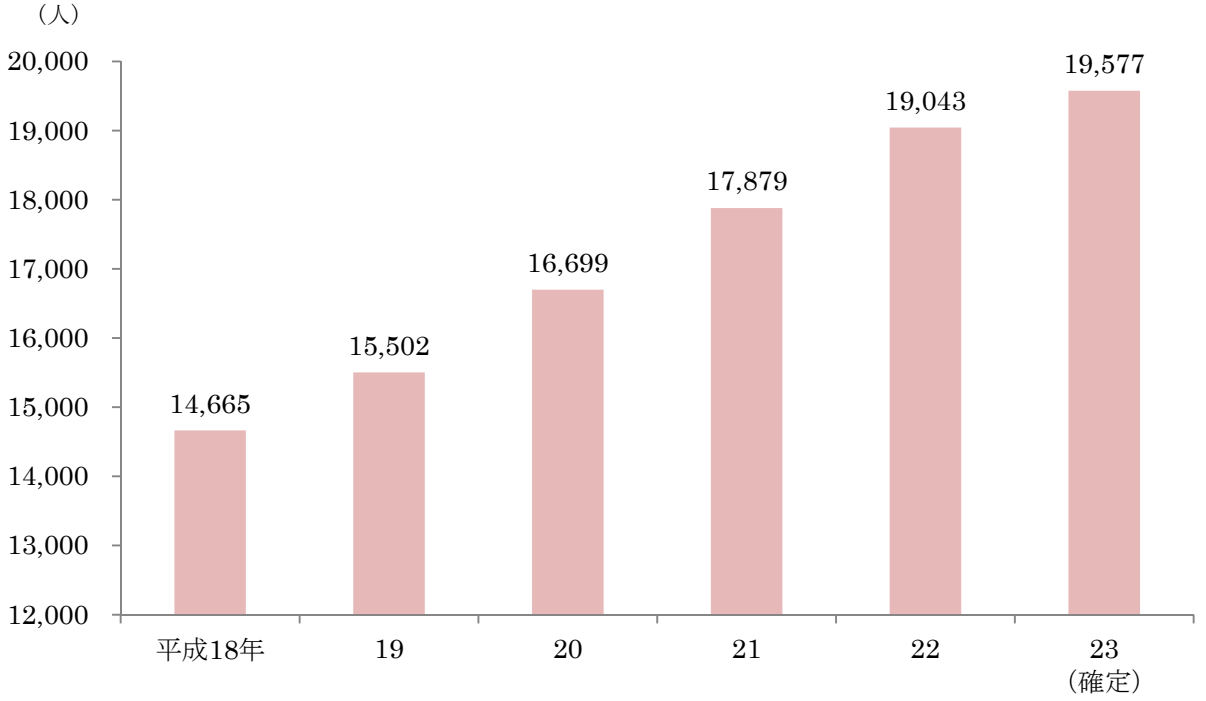


3　就業構造の変化により消防団員に占める被雇用者の割合が高くなってきており、被雇用者団員比率は71.0％となった。



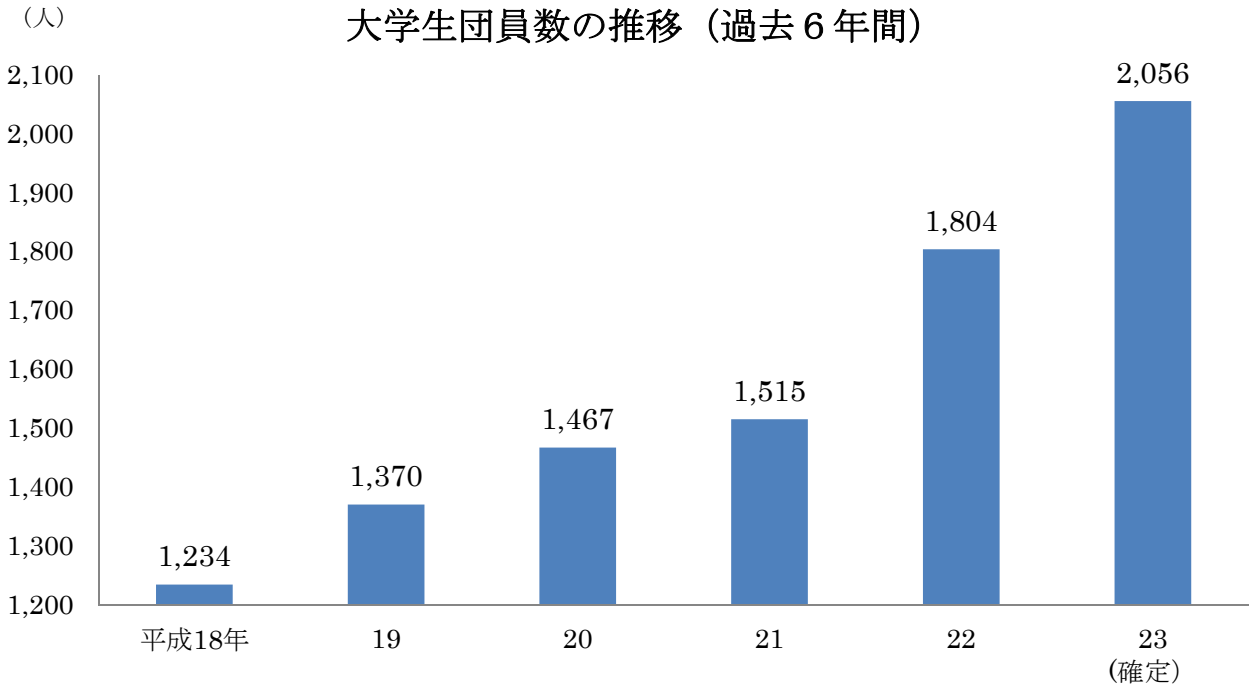
4　女性消防団員数は 19,577 人で全体の 2.2%であり、前年度より 534 人増加した。
消防団員総数が減少する中でも、女性消防団員数は年々増加しており、5 年前の平成 18 年に比べ、1.3 倍の 4,912 人増加した。

女性消防団員数の推移（過去６年間）



5　学生（専門学校生を含む）の消防団員数は 2,056 人であり、前年度より 252 人増加した。学生の消防団員数についても年々増加しており、5 年前の平成 18 年に比べ、1.7 倍の 822 人増加した。

大学生団員数の推移（過去６年間）

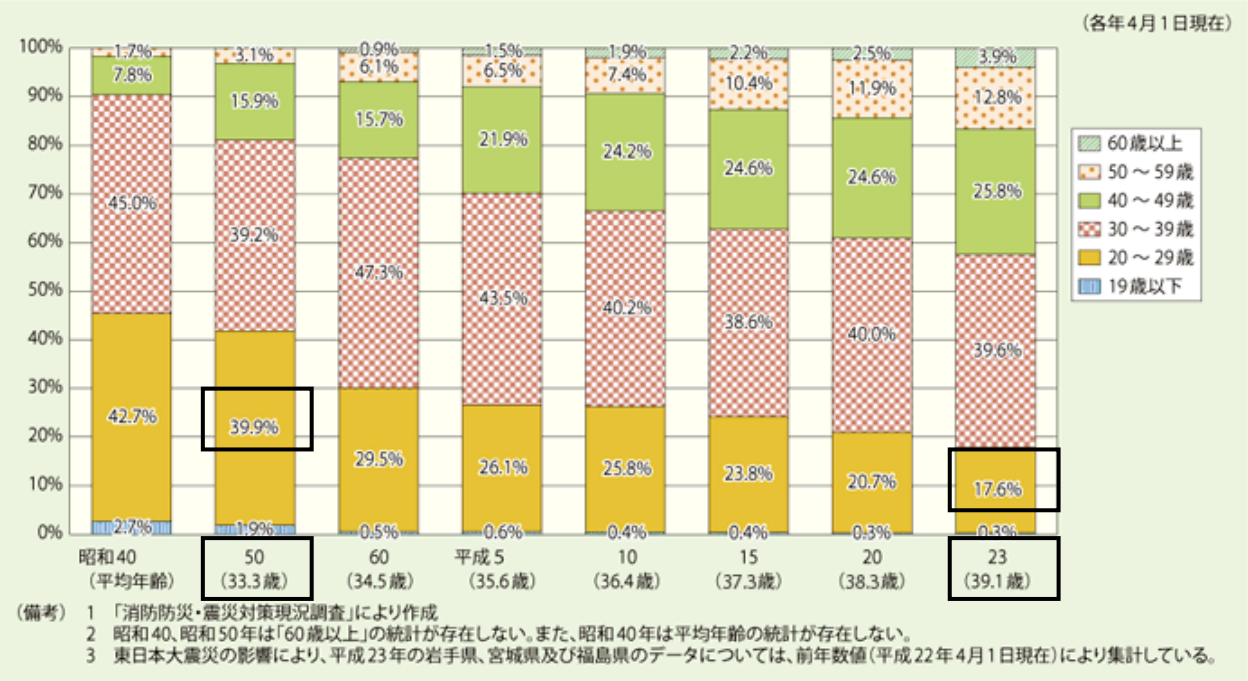


平成 23 年版　消防白書より抜粋

消防団員の平均年齢の上昇

消防団員の平均年齢は、平成23年4月1日現在、10年前の平成13年（2001年）4月1日現在の36.9歳に比べ2.2歳上昇し、39.1歳となっており、毎年少しずつではあるが、団員の平均年齢の上昇が進んでいることから、若者の入団促進を図る必要がある。

消防団員の年齢構成比率の推移



（備考）1 「消防防災・震災対策現況調査」により作成
2 昭和40、昭和50年は「60歳以上」の統計が存在しない。また、昭和40年は平均年齢の統計が存在しない。
3 東日本大震災の影響により、平成23年の岩手県、宮城県及び福島県のデータについては、前年数値（平成22年4月1日現在）により集計している。

※（２０歳代の消防団員数）

昭和５０年　約１１２万人×３９．９％ ≒ ４４．７万人

平成２３年　約８８万人×１７．６％ ≒ １５．５万人　２９．２万人の減少

岩手県釜石市での取組

◆釜石市では「津波防災教育」を実施しており、東日本大震災において「子ども犠牲者ゼロ」を達成した。

【釜石市における防災教育のあゆみ】
〇平成20年、文部科学省「防災教育支援モデル地域事業」に採択されて以来、市内の全小中学校を対象に津波防災教育を推進。全住民が一定期間必ず属することになる小中学校で津波防災教育を行う仕組みが構築されることで、長期的視点にたつと、全住民に津波防災に関する知恵を与えることになり、ひいてはそれが釜石の津波災害文化の醸成につながるからであると考え、沿岸部に位置する学校教諭を中心として、防災教育カリキュラム作成ワーキンググループを立ち上げ、教材開発に着手。
〇平成22年、防災教材「津波防災教育のための手引き」作成。
〇平成23年3月11日、東日本大震災において、学校管理下にあった児童・生徒の犠牲者はゼロであった。

●「防災教育支援モデル地域事業」応募内容

【目的】「地震・津波から子供の命を守る」をキーワードとして、その保護者や地域の住民が協力して安全に避難できる地域づくりを推進することにより、防災教育にまい進する地域体制、具体的教育手法を構築する。
【事業内容】①防災科学技術教育関連教材等の作成
②学校の教員等を対象とした研修プログラムの開発・実施
③実践的な防災教育プログラムの開発・実践
④地域の実情に応じた先進的な取り組みの実施

「平成20年度　文部科学省防災教育支援事業
－子どもの安全をキーワードとした津波防災－報告書」▶

●『釜石市津波防災教育の手引き～はじめに』

釜石市での津波防災教育の目的は、今日明日にでも発生するかもしれない三陸沖地震津波に備えて、児童・生徒に『自分の命は自分で守ることのできるチカラ』をつけることです。（中略）釜石市では、小中学校での津波防災教育を継続していくことにより、『釜石に住むことは津波に備えるのは当たり前』という文化を形成するとともに、『津波はたまに来るけど、釜石はこれほどまでに魅力的な郷土である』という郷土愛を育んでいきたいと考えています。（平成22年3月吉日　釜石市教育長）

岩手県釜石市での取組

●『釜石市における防災教育の理念』

釜石市に住むための『お作法』としての津波防災
津波防災教育を通じて、いざというときに津波から生き延びるための知恵をつけることは、この地で住むことのお作法である、という認識のもとで防災教育を実施している。

『子どもの安全』をキーワードとした津波防災
地域の宝である“子ども”の津波からの安全をキーワードに教育することで、学校から保護者、地域へと防災教育の実施効果が波及させていくことを念頭において、学校のおける津波防災教育を実施する際には、保護者や地域を巻き込んだ活動を積極的に行っていくようにしている。

『てんでんこ』の意味を見つめ直す
釜石市における津波防災教育では、子どもを通じて、その保護者に対して、「子どもには一人でも避難することができる知恵を持たせるための教育をしっかり行うので、いざというときには子どものことを信用して、保護者の方々もちゃんと避難してほしい」というメッセージを発信し、各家庭で津波襲来時の避難方法に関する具体的な相談をすることを促すような取り組みも行っている。

『助けられる人』から『助ける人』へ
中学生における防災教育では、『地域のために中学生である自分たちができることは何か？』を考えることを促し、そしてそれを実行するための行動力を身につけることを目的とした指導を行っていこうと考えている。

『釜石市津波防災教育の手引き』

EASTレスキュー（釜石東中学校）
『助ける人』になれるような知識や技術を身につけるための実践教育。

津波防災意識啓発DVD（釜石東中学校）
生徒扮する「てんでんこレンジャー」が、日頃からの備えを分かりやすく紹介。

小中学校合同避難訓練（鵜住居小学校・釜石東中学校）

こども津波ひなんの家（鵜住居小学校・釜石東中学校）
防犯分野で導入されている「こども110番の家」をヒントに、子どもを介して地域に津波防災を波及させる。

こども
津波ひなんの家

少年消防クラブの取組（静岡県）

黒田学童少年消防クラブ（富士宮市）

黒田学童少年消防クラブは、学校でなく、学童で結成された県内では珍しいタイプの少年消防クラブです。毎年夏には花火の正しく安全な遊び方について学ぶ「花火教室」が開催され、クラブ員はそれぞれ自分の住む地域で開催される花火教室に参加し、消防職員の指導の手伝いをします。

消火訓練や防火ポスターの作成といった火災に関わる予防活動の他に、研修では地震防災センターを見学し防災についての知識を身に付けたり、危険物安全週間期間中にはガソリンスタンドにのぼりを持って立ち、給油する車に危険物の安全な取扱いをお願いするなど、活動は多岐に渡ります。

磐田市立青城小学校 少年消防クラブ（磐田市）

磐田市立青城小学校少年消防クラブは、昭和56年に結成され、現在小学校高学年を中心に有志の児童で活動をしています。

ロープワークでは消防職員が実際に現場で用いる結索法を学び、お互いに教え合いながら技術を身に付けていきます。また、卓上燃焼実験では、自らの目で燃える様子を確かめながら家庭内の身近な物質の性質や取扱いについて、学んでいます。

この他、消防職員の指導の下、AEDや心配蘇生法について学ぶなど、より実践的な訓練を通じて命を守る方法や消防・救急の仕事について理解を深めています。

少年消防クラブの取組（愛知県）

全国少年消防クラブ運営指導協議会愛知県支部の「愛知県消防学校一日体験入校」は、30年以上続いています。
一日入校は夏休み中に3日間開校します。各日約500名、延べ1，500名のクラブ員が消防学校で様々な体験をします。
「放水体験」「消防車試乗」「地震体験」「煙道体験」など、楽しみながら、実際に体験できるメニューを数種類用意しています。
こうした体験を通じて、子ども達に防火や防災を学ぶ場を提供しています。

消防車試乗

煙道体験

地震体験

空気呼吸器装着

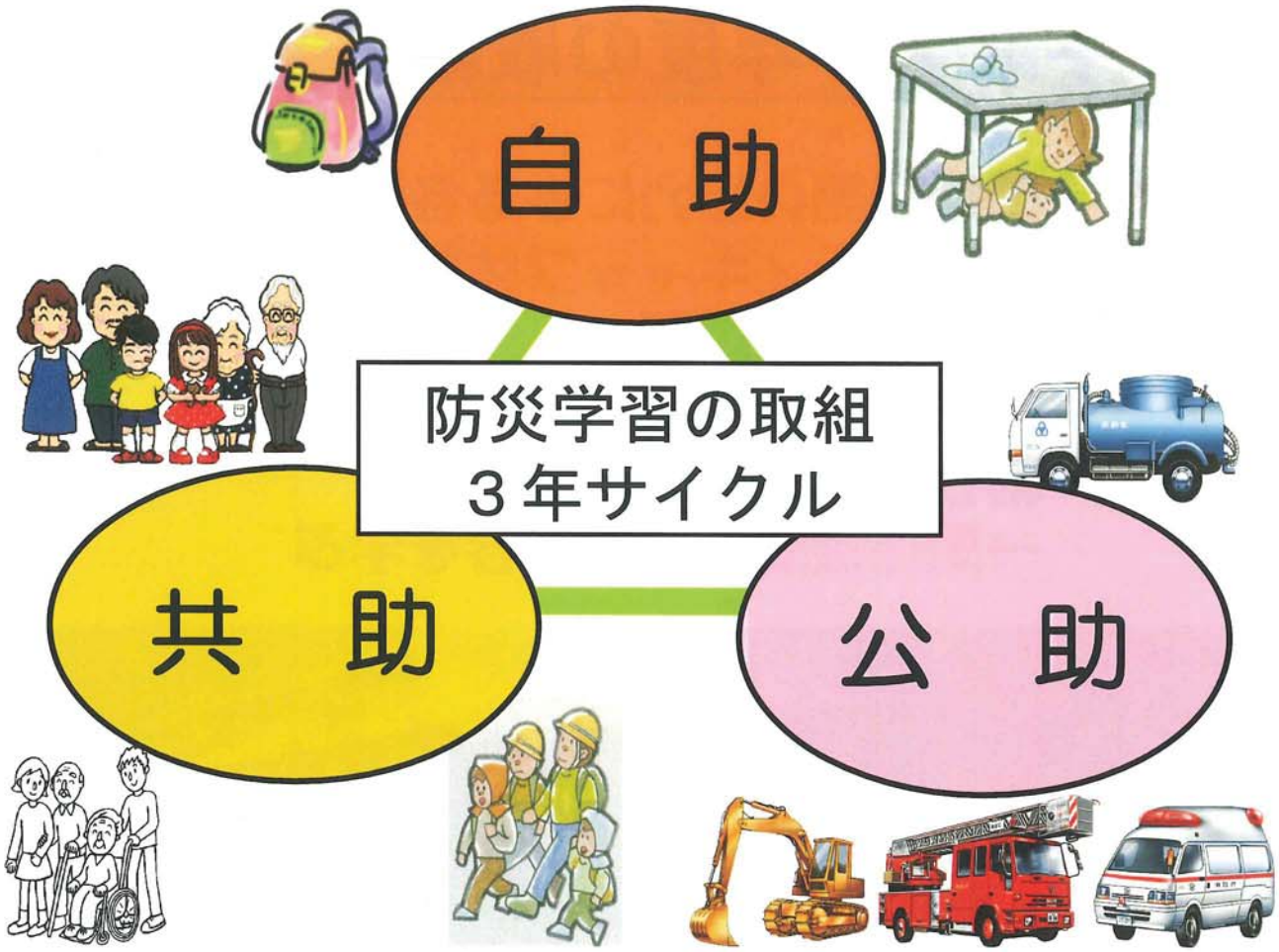
住宅用火災警報器啓発

（写真提供：愛知県）

活　動　報　告　１（レジメ）

少年消防クラブ指導者研修会

平成２４年２月１１日

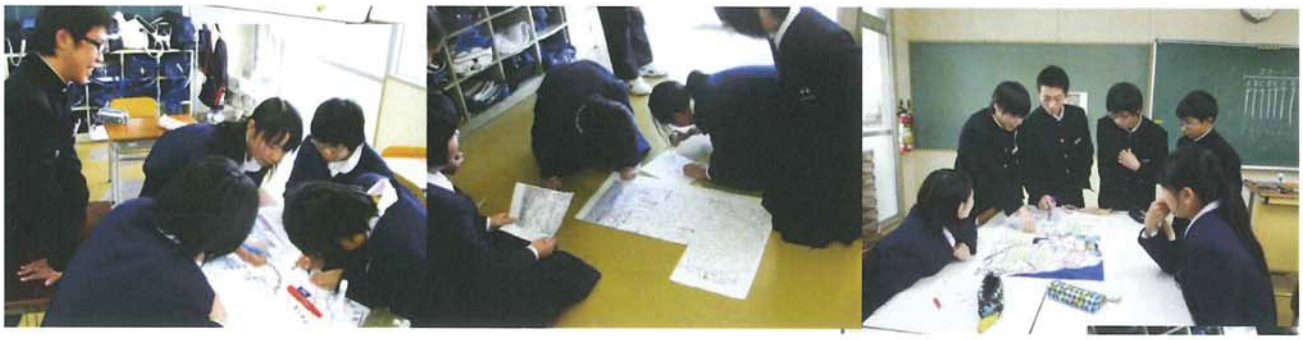


平成２０年度の取組

自助

- 過去の津波体験者から講話
- 地域への聞き取り調査
- 地区の防災マップの作成
- 総合防災訓練

→自分の身を守り、被害を最小限にすることを目的とする



平成２１年度の取組

公助

・関係機関の協力による各種講習
　ハンディキャップ体験
　応急手当講習
　救急救命講習
・総合防災訓練
　→関係機関の活動内容を学ぶ

平成２２年度の取組

共助

・防災調査
・体験活動
・地域の関係機関とのより一層の連携
（消防団、婦人防火クラブ、自治会）
・総合防災訓練（地域住民と合同）
　→地域と協力し、共に助け合う！

“階上中学校総合防災訓練の特徴”

自分たち中学生が、災害時に出来ることは
何だろう？　それを考え、実行しています!!

避難所班

救出班

救護班

炊き出し班

テント・トイレ班

救出班・救護班：負傷者の搬送、問診票の作成

テント・トイレ班：本部の設置、オリジナルテント・トイレの作成

炊き出し班：アルファ米や乾パンの料理、食事の配給

避難所班：畳やダンボールを敷いたり、掲示板を作成

3. 11 東日本大震災当日

地震発生

↓

緊急地震速報

避難行動 → ①屋外に避難 ②校舎内へ避難

↓

避難誘導・避難所設営の初期作業

3. 11 東日本大震災当日

避難スペースの確保

・体育館、各教室、駐車場

毛布・紅白幕・白布などで防寒

ラジオを使い情報収集

トイレの水汲み

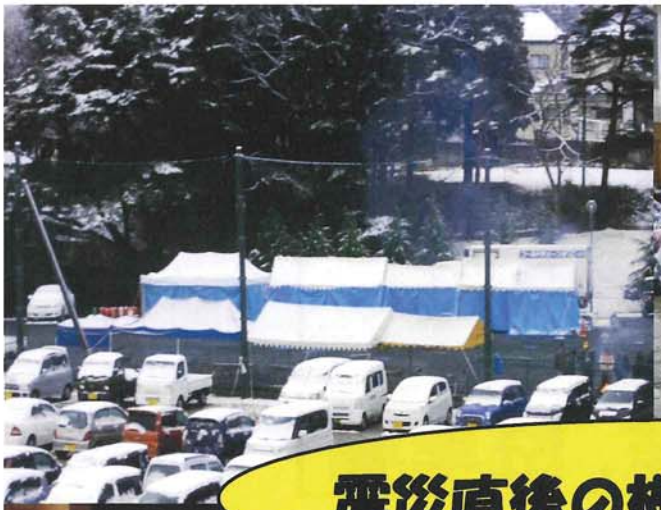
避難所生活での行動

避難所の設営

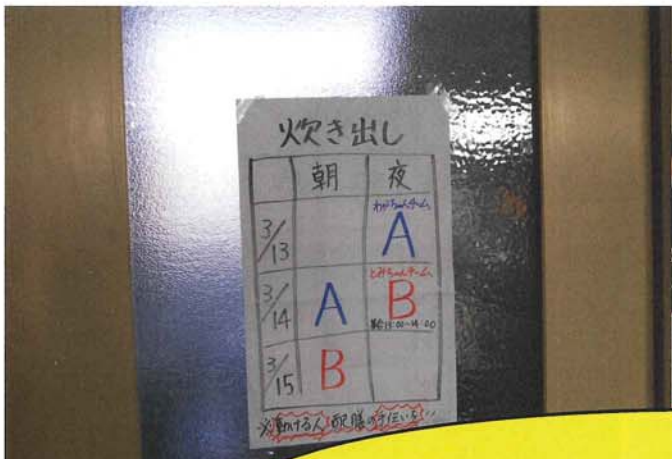
炊き出し・配膳

清掃・トイレの水汲み

支援物資の運搬・配布



震災直後の様子（避難所）



震災直後の様子（炊き出し）

東日本大震災での体験を通して

①平成23年度の取り組み

・防災学習（自助）

・総合防災訓練

②私たちから伝えたいこと

①平成２３年度の取組

自助

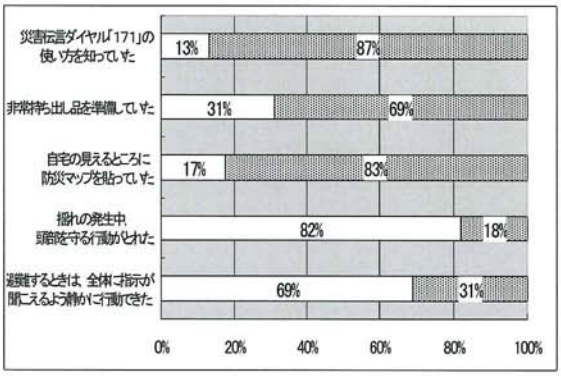
・災害用伝言ダイヤル１７１の活用

・非常時用持ち出し袋の考案

・防災マップの作成（高台・最短避難経路の再確認）

・総合防災訓練

→自分たちの身は自分たちで守る

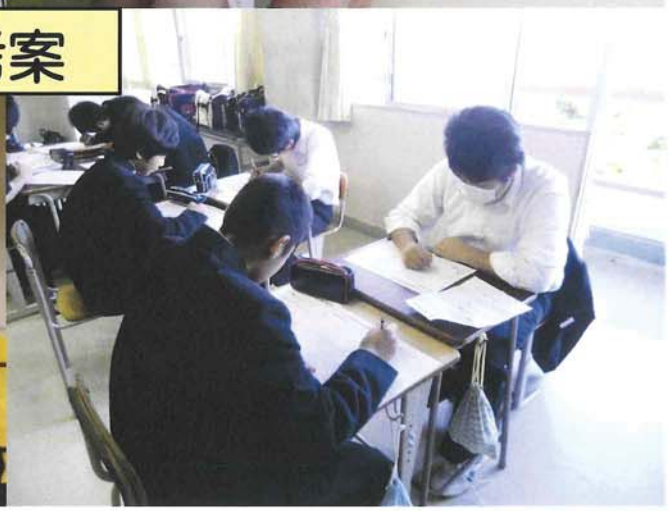


災害用伝言ダイヤル１７１の活用

操作手順		伝言の録音		伝言の再生	
①	１７１をダイヤル	171			
②	録音または再生を選ぶ。	[ガイダンス] こちらは災害用伝言ダイヤルセンタです。録音される方は「1」、再生される方は「2」、暗証番号を利用する録音は「3」、暗証番号を利用する再生は「4」をダイヤルしてください。			
		（暗証番号なし）	（暗証番号あり）	（暗証番号なし）	（暗証番号あり）
		1	3 [ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。 XXXX	2	4 [ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。 XXXX
③	被災地の方の電話番号を入力する。	[ガイダンス] 被災地の方はご自宅の電話番号、または、連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルして下さい。被災地域以外の方は、連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルして下さい。 0XX XXX XXXX			
		伝言ダイヤルセンタに接続します。※1			
		[ガイダンス] 電話番号0XX0XXXXXX(、暗証番号XXXX)の伝言を録音します。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」のあとシャープを押して下さい。ダイヤル式の方はそのままお待ち下さい。尚、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直し下さい。			
		ダイヤル式電話機の場合	プッシュ式電話機の場合	ダイヤル式電話機の場合	プッシュ式電話機の場合

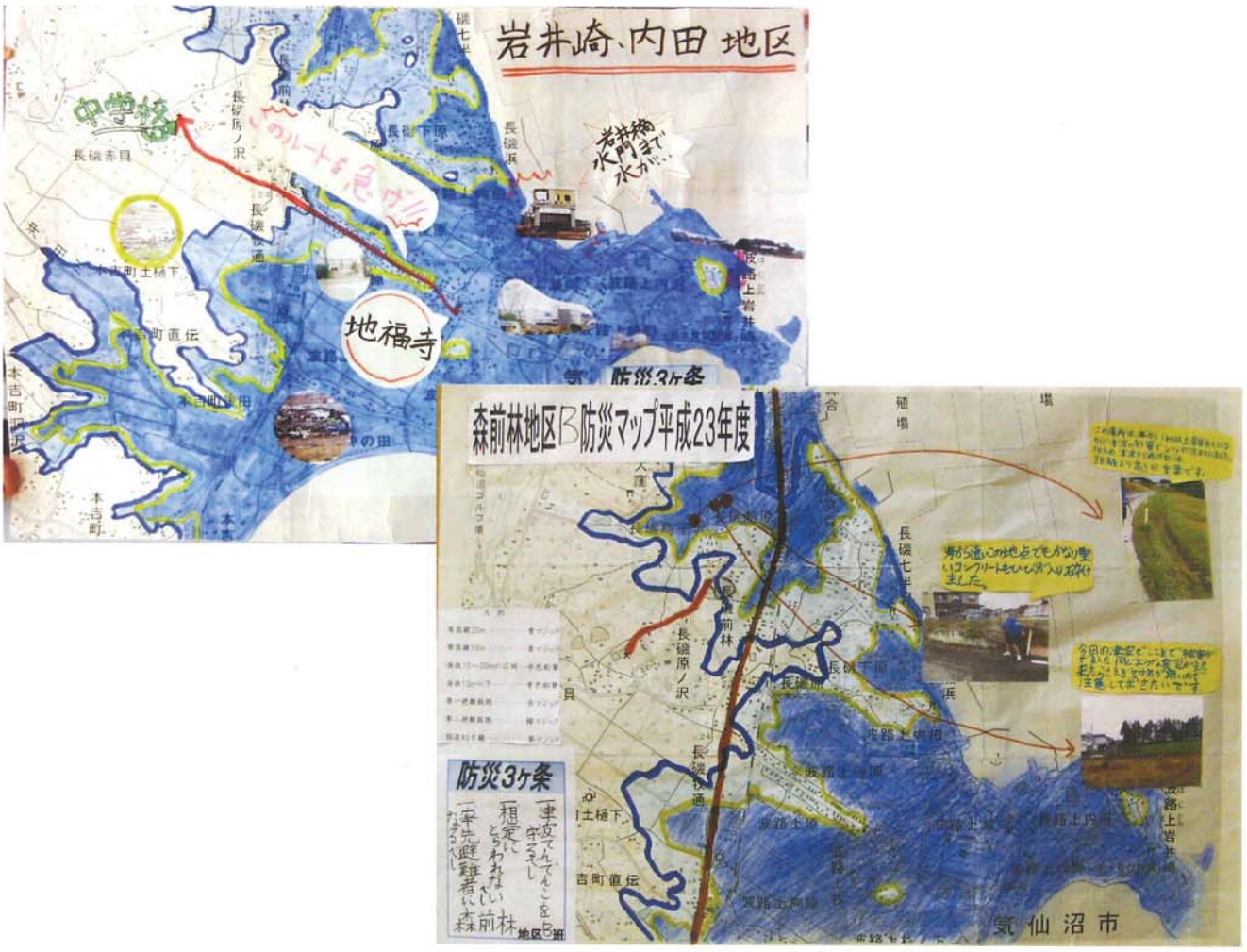
通話料は発生しません

非常時用持ち出し袋の考案



地区の危険箇所・避難経路の再調査

防災マップの作成


岩井崎、内田 地区
中学校
このルートを急げ!!
岩井崎
水門まで水が…
地福寺
防災3ヶ条
森前林地区B防災マップ平成23年度
海から遠いこの地点でもかなり厚いコンクリートをハンマーが入り込みました。
今回の調査ビニールまで到達しました。同じように調査しました。考えられる事は水門が遠いので注意してほしいです。
防災3ヶ条
一 車波でんでんこを守るべし
二 想定にとらわれない
三 率先避難者になるべし
森前林地区B班
気仙沼市

総合防災訓練①　学校で被災

＜緊急地震速報システムを活用した地震避難訓練＞

総合防災訓練②　自宅で被災

＜避難経路の危険箇所を確認＞

東京消防庁ホームページより

消防少年団員募集

1　消防少年団に入ろう！

先の東日本大震災において、尊い児童生徒の命が奪われ、児童生徒への防災教育の必要性が今、叫ばれています。東京消防庁では、平成20年度から総合防災教育として、児童生徒の防災行動力を高める事業を推進しています。

消防少年団員については、この総合防災教育を受ける一般の児童生徒などの同世代の防災リーダーとして、また、地域防災の担い手へと育成し、活躍できるよう期待されています。

2　消防少年団（Boys and girls Fire Club. 略称B. F. C）とは？

「七つのちかい」のもと、防火防災に関する知識及び技術を身につけるとともに、規律ある団体活動や奉仕活動などを通じて、社会の基本的なルールをきちんと守り、思いやりの心を持った責任感のある大人に育つよう、日々の活動に取り組んでいます。

消防少年団「七つのちかい」

- ○ 私は、火の用心に努めます。
- ○ 私は、礼儀正しくします。
- ○ 私は、約束を守ります。
- ○ 私は、自分のことは自分でします。
- ○ 私は、すなおにします。
- ○ 私は、たがいに助け合います。
- ○ 私は、常に感謝の気持ちを忘れません。

3　消防少年団の歴史

昭和26年に国からの通知により、東京都内では小学校単位で結成されましたが、東京消防庁管内では、昭和51年に消防署を単位とした団体へ再編し今日に至っています。

4　消防少年団の組織構成・現況

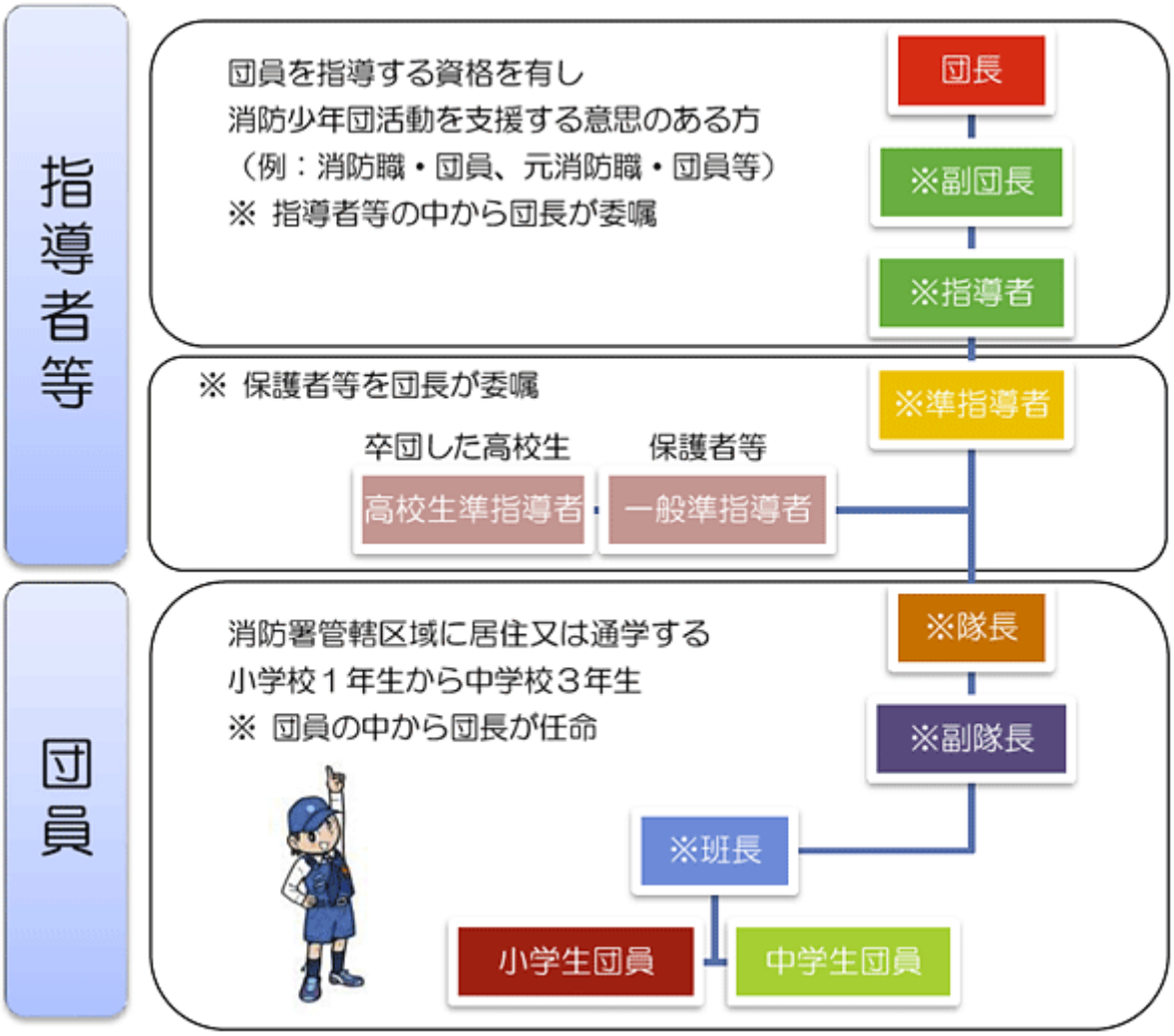
消防少年団は、原則、消防署管轄区域に居住又は通学する小学校1年生から中学校3年生までの児童、生徒、消防少年団の活動を支援する準指導者、指導者で構成されています。（表１参照）

準指導者は、15歳以上の卒団した高校生や団員の保護者等、指導者は、団員を指導する能力を有する、例えば消防職・団員、元消防職・団員、その他教育関係の職につかれた方等、消防少年団活動を支援する意思のある方がボランティアとして活動しています。

平成22年度に、東久留米消防少年団が発足し、東京消防庁管内全体では現在80団が活動しています。（表2参照）

また、総務省消防庁の指導により全国各地で少年少女を対象とした同様の団体が結成されています。

表1　消防少年団の組織構成（基本的な例）



※ 各団の実情、規模等により若干異なります。

表2　消防少年団の現況（平成23年5月1日現在）

団　数	隊　数	班　数	団員数（人）		指導者数（人）	準指導者数（人）	
80	136	229	3，124		914	910	
			（小学生）2，267	（中学生）857		（一般）540	（高校生）370

5　主な活動内容

各種行事への参加のほか、年間計画に基づき、規律訓練や結索訓練の他、火災予防広報として地元の商店街におけるパレード、高齢者施設訪問などを行っています。（表3参照）

各種訓練では、技能考査基準を設けており、基準に達した団員は、技能章のバッチを制服の胸につけます。

表3　活動の紹介

活動事例		
応急救護訓練	火災予防広報	初期消火訓練

※ 毎月約1～2回の訓練、行事参加等の活動を実施しています。

小学生、中学生であれば、消防少年団に入団できます！
入団の方法や活動内容など、詳しいことは最寄りの消防署へお問合せください。

高校生への拡大（青森県）

十和田西高校少年消防クラブ
（青森県十和田市）

私たちの住む十和田市は、青森県の南東部にあり、神秘の湖十和田湖・奥入瀬渓流等、豊かな自然に囲まれており観光客で賑わう人口6万6，000人の田園都市です。

平成23年4月、青森県では2校目となる高校生の少年消防クラブを結成することになりました。

私たちの学校は、地元の観光資源を活用した学習を通し、ビジネスに関する知識と技術を習得し、上級の資格を習得して進学・就職を目指している全国でも数少ない観光科があります。クラブ員は校内で組織する規律委員会のメンバー8人が属し、今後は消防署や消防団、また、婦人防火クラブの方々の指導を頂きながら防火防災に関する知識を深め、地域防災の担い手として活躍していきたいと考えています。

今年度は、防火パレード等の各種消防行事に積極的に参加すると共に、地域の防災事情の把握、救命講習の受講、住宅用火災警報器設置率向上の広報活動等に取り組み、地域に貢献できるよう活動していきたいと思っています。

五戸高校少年消防クラブ（青森県五戸町）

平成22年3月末、日本消防協会副会長でもあります川崎七保五戸町消防団長の働きかけにより、青森県内ではもちろん東北地方でも珍しい高校生の消防クラブが結成されました。

クラブ員は21名。うち半分が女性ですが消防に関心のあるメンバーが集まり、初代隊長には将来消防職員を目指す川守田義仁君が就任しました。

結成当初から約1ヶ月後の五戸地区消防団連合観閲式に参加することが決まっており、初日から早速規律訓練を行い、整列や動作の仕方を地元消防署員や消防団員から指導を受けました。その後も訓練に励み即席ではありましたが、迎えた観閲式では整列と分列行進を堂々と披露することができました。

今後は初期消火や応急手当など実技体験をしながら消防防災を学んでいく予定です。

（財）日本防火協会発行 「少年消防クラブニュース」より

高校生への拡大（京都市）

◆京都市では「消防団1日体験入団プログラム」を実施している。

【事業化の経緯】

大規模災害時において、大量動員性を活かした地元消防団の活動が不可欠であるが、消防団員の充足と若者の登用は、顕著な課題である。その原因の一つは、**消防団との接触機会が少なく、認知不足により若年層の入団希望者が少ない**ことが挙げられる。そこで、**体験を通じて少しでも消防団に対する認識を深め、消防団との距離を縮め、近い将来、地域の防火防災活動に参加しようとした時、躊躇することなく消防団に入団できる環境を整える**ために、「消防団1日体験入団プログラム」を実施することとした。

●実施要綱 （「消防団1日体験入団プログラム実施要綱」より抜粋）

【対象】 市内に居住、または在学する高等学校生徒

【目的】 若年層に対して消防団活動を体験できる機会を与え、入団促進につなげる

【参加人数】 原則として、1回50人以内

【カリキュラム】

(1)基礎カリキュラム 消防団活動における基礎的な知識及び技術を習得する

(2)体験カリキュラム 消防団活動を体験する

【被服】 活動帽、活動服上衣（長そで）、ズボン、活動服用バンド、作業用手袋等を貸与

【修了証】 消防団1日体験入団プログラムを終了した者に対して、修了証を交付

1 基礎カリキュラム

科目	時間（分）	内容
組織制度	20	消防団の組織制度について
消防団活動	40	消防団活動について
訓練	100	(1) 実放水訓練 (2) その他消防活動に関する訓練
合計	160	

2 体験カリキュラム

科目	時間（分）	内容
体験	60以上	次の各号のいずれかを実施する。 (1) 予防活動 (2) 警防活動 (3) 警防訓練 (4) その他

●募集・応募

【募集】 市内高等学校、鉄道各駅にてポスター掲示、ビラ配布。※報道機関に対する情報提供により、新聞に記事掲載された。

【応募】「往復はがき」「電子メール」「学校でのとりまとめ」

※参加19名中の応募方法内訳は、「電子メール」11名、「学校でのとりまとめ」7名、「往復はがき」1名。

高校生への拡大（京都市）

●実施概要

「基礎カリキュラム」　＜実施日：平成23年11月5日（土）　於：京都市消防学校　参加者：男子11名、女子8名＞

1. 組織制度　消防団活動紹介DVD鑑賞、4～5名のグループミーティングを通して基礎知識を学ぶ
2. 消防団活動　消防団員から消防団活動や様子について話を聞く
3. 訓練　参加者を2班に分け、街区訓練場で放水訓練、屋内訓練場でロープ結索訓練を交互に実施

◀グループミーティングの様子
消防職員や消防団に対して、率直な疑問や質問が投げかけられた。

放水訓練の様子▶
反動力に負けないよう基本注水姿勢を忠実にとる姿は、消防団員さながらの勇ましいものだった。

●「基礎カリキュラム」参加者アンケート結果

【応募動機】	1位　学校内のポスター・ビラ（8件）、2位　学校からの紹介（6件）	※単一回答
【応募理由】	1位　消防士に対する興味（14件）、2位　消防団に対する興味、家族・友人の勧め（6件）	※複数回答
【参加に当たっての問題・不安】	1位　クラブ活動との調整（6件）、2位　授業との調整	※単一回答
【開催希望時期】	1位　11月（7件）、2位　8月、10月（4件）	※複数回答
【期待したこと】	1位　訓練を体験できること、2位　体験談を聞くこと等消防全般に関する知識習得	※記述回答
【感想】	1位　訓練等貴重な体験ができた、2位　消防士・消防団の仕事について知ることができた	※記述回答

ぼうさい探検隊マップコンクール

1　事業概要

日本損害保険協会・ユネスコ・朝日新聞社・日本災害救援ボランティアネットワークの主催により、子供達に防災・防犯に関する知識を楽しみながら身につけてもらうとともに、各地域において防災・防犯教育に取り組むことのできる環境づくりを目的として、小学校や自治会、子ども会等で、小学生が中心となって防災・防犯をテーマに作成したマップを募集・表彰。

2　少年消防クラブ受賞事例

○第１回（2004 年度）受賞 8 団体
○第２回（2005 年度）受賞 9 団体
○第３回（2006 年度）受賞 10 団体
※第１～３回は少年消防クラブの受賞なし

○第４回（2007 年度）受賞 15 団体（少年消防クラブ 2 団体）
＜未来へのまちづくり賞（朝日新聞社賞）＞
・兵庫県新温泉町立春来小学校少年消防クラブ
＜ぼうさい探検隊賞（日本損害保険協会賞）＞
・北海道上富良野町少年消防クラブ

○第５回（2008 年度）受賞 15 団体（少年消防クラブ 1 団体）
＜審査員特別賞＞
・兵庫県香美町立小代小学校少年消防クラブ

○第６回（2009 年度）受賞 15 団体（少年消防クラブ 2 団体）
＜まちのぼうさいキッズ賞（ユネスコ提供）＞
・広島県府中町少年少女消防クラブ
＜審査員特別賞＞
・兵庫県美方広域消防本部 BFC 香美町立佐津小学校

○第７回（2010 年度）受賞 15 団体（少年消防クラブ 2 団体）
＜消防庁長官賞＞
・東京都目黒消防少年団
＜審査員特別賞＞
・大分県高瀬少年消防クラブ

○第８回（2011 年度）
受賞 15 団体（少年消防クラブ 2 団体）
＜消防庁長官賞＞
・東京都日本橋消防少年団
＜審査員特別賞＞
・東京都目黒消防少年団
・三重県船越少年消防クラブ
・京都府城陽少年消防クラブ

（東京都日本橋消防少年団ぼうさいマップ）

少年消防クラブ交流会（消防庁）

１　目的

東北地方において、被災地消防団等から震災の教訓を学び、他地域の少年消防クラブ員と交流を深める交流会を開催することにより、将来の地域防災の担い手（消防団等）育成を図る。

２　実施期間

平成２４年８月７日（火）～９日（木）

３　場所

岩手県盛岡市、陸前高田市、遠野市、宮古市、矢巾町

４　参加予定クラブ

北海道、東北、関東地方のモデルクラブから募集した１８クラブ
（１クラブあたりの参加者は、小中学生のクラブ員５名程度、各クラブの指導者１～２名程度）

５　内容

（１日目）８月７日
・現地集合（盛岡駅）
・被災地視察（協力：陸前高田市消防本部）
・宿泊施設着（遠野市）
・お話会（参加：遠野市の少年消防クラブ、子供語りべ）

（２日目）８月８日
・朝のラジオ体操
・クラブ対抗競技（参加：矢巾町矢巾東小学校の少年消防クラブ）
・岩手県防災センター等視察
・キャンプ場着（宮古市）
・炊き出し訓練
（参加：宮古市門馬小学校の少年消防クラブ、協力：宮古市の消防団及び婦人（女性）防火クラブ）
・キャンプファイヤー

（３日目）８月９日
・朝のラジオ体操
・野外活動
・解散（盛岡駅）

６　その他

参加した少年消防クラブ員の感想等を基に記録集を作成。

大学生の取組（淑徳大学）

- 千葉県千葉市では、平成22年4月、淑徳大学の防災ボランティア組織「淑徳大学学生消防隊」のメンバーからなる学生消防団（団員11名　うち女性5名）を「千葉市消防団第3分団5部」として、大学キャンパス内に発足させた。
- 大学構内だけではなく、地域の消防職員の活動の後方支援、広報活動、救急救護等にあたっている。
- 平成22年6月には、千葉市の操法大会にも参加した。

女性消防団の取組（津市消防団デージー分団）

デージー分団は、平成18年1月に女性のみで組織する消防分団として発足し、現在15名（H23.4.1現在）の女性消防団員が、広報活動、一般家庭への防火訪問、一人暮らしの高齢者宅への防火訪問、応急手当指導など幅広く活躍している。

また、近年では防災訓練で、消火活動の訓練展示も行っている。

※「デージー」＝「ひなぎく（火無効く）」

消防団員入団促進キャンペーン期間における広報展開等（消防庁）

＜広報一覧＞

○ポスター（B2 判 20 万部、B3 判 31 万部、計 51 万部）　＜配布済み＞

○リーフレット（56 万部）　＜配布済み＞

○総務省広報誌「総務省」
　１／１（日）

○大学内電子看板広告（４８大学）【新規】　※校内の学食、講堂等に設置
　１／１０（火）～１／２４（火）

○新聞広告（読売新聞テレビ欄カラー全３段）　＜掲載済み＞
　１／１８（水）　岐阜県、愛知県、三重県
　１／２１（土）　他４４都道府県

○検索連動型ネット広告（Google）【新規】
　１／２０（金）～３／１９（月）

○コンビニエンスストア（ﾛｰｿﾝ、ﾌｧﾐﾘｰﾏｰﾄ、ｻｰｸﾙ K ｻﾝｸｽ）レジモニター広告【新規】
　１／３１（火）～２／１３（月）

○コンビニエンスストア（ﾛｰｿﾝ、ﾌｧﾐﾘｰﾏｰﾄ、ｻｰｸﾙ K ｻﾝｸｽ）店内放送【新規】
　※　消防庁長官メッセージの放送
　１／３１（火）～２／１３（月）

○大規模 SC（イオンモール）デジタルビジョン広告【新規】
　２／１（水）～２／１４（火）

○雑誌広告
- 週刊文春　２／２（木）
- 日経 TRENDY　２／３（金）
- 日経 WOMAN　２／７（火）
- InRed　２／７（火）
- Sports Graphic Number　２／９（木）
- 月刊テレビジョン　２／２４（金）
- レタスクラブ　２／２５（土）

○政府インターネットテレビ「徳光＆木佐の知りたいニッポン！」　２／２３（木）

地域防災スクールの推進（消防庁）

地域防災スクールとは

○市町村等において実施される、自主防災組織、児童、生徒等の地域住民に対して、防災活動や消防についての理解促進のための基礎知識や基本的な技術を広く伝え、将来の地域防災を担う人材を育成する取り組み。

○消防職員・消防団員等が指導者となって実施し、地域住民が初期消火、避難、救出・救助、応急救護などの防災に関する知識や技術を身につけることを目指す。

地域防災スクール

（市町村等において実施）

消防職員・消防団員等が指導者となり、地域住民が消防・防災に関する知識や技術を身につけることを目指す。

消火訓練、応急手当講習、
出前講座、防災まち歩き、
災害図上訓練（DIG）…

消防庁

・教材の作成、提供
・活動の助言

推進支援策

【教材の作成・提供】

消防庁では平成21年度、地域防災スクールにおいて活用できる指導者用防災教材「チャレンジ！防災48」を作成し、平成22年3月に都道府県、都道府県教育委員会、市町村、市町村教育委員会及び消防署等に配布しました。また、本教材については、消防庁ホームページの防災・危機管理e-カレッジ（http://www.e-college.fdma.go.jp/）からダウンロードできます。

指導者用防災教材「チャレンジ！防災４８」（消防庁）

消防庁では平成22年3月、子どもたちが小さいころから防災に興味を持ち、災害時の身の安全の確保、初期消火、応急救護など、発達段階に応じた実践的な防災知識を身につけてもらうことを目的とした防災教材「チャレンジ！防災48」を作成した。

○都道府県、都道府県教育委員会、市町村、市町村教育委員会、消防署、消防団等へ約1万7千部配布し、さらに総務省消防庁の防災・危機管理eーカレッジ（http://www.e-college.fdma.go.jp/）にて公開。

○ただ聞くだけの座学ではなく、実技的な要素を多く含む実践的な教材となっている。

○年代別に区分されたコンテンツメニューが数多く用意されているため、指導者が教育現場に合った項目を選んで指導できる。

○災害に関する映像（動画）・写真をDVD教材に多数収録しており、実際の災害の怖さや迫力を体感できる。

本教材の内容
①指導者用テキスト
②実技・演習等を補完する補助教材
③災害に関する映像・写真
④参考資料

・「チャレンジ！防災48」をより有効に活用して頂けるよう、活用にあたってのポイントや、実際に活用して防災教育を実施した事例を紹介した、活用事例集を作成。消防庁ホームページに掲載
（http://www.e-college.fdma.go.jp/bosai/bousai48.pdf）